

農と福祉と健康の里 毎日元気にウォーキング**活動の経緯**

養蚕業の衰退とともにその周辺は桑園等の放棄地が増え、不法投棄の場となったことで改良区副理事長と地元有志が中心となり里山再生に着手し、改良区主催の散策道路の整備が地域住民参加で行われました。鹿田山環境保全ネットワークを設立し地域の農業振興や環境保全を開始しました。

活動の概要

里山整備に着手し遊休農地の活用、フットパス整備に取組、地域住民に農業体験や憩いの場を提供。



生徒等による甘藷植え



フットパス整備

活動の成果、主な実績等

渡良瀬特別支援学校の生徒を中心に、約4kmのフットパスを雑木林や農地区域内に整備してきました。フットパスには、木材チップを敷いたことで利用者の膝への負担を和らげることから、地域住民が朝早くから夕方暗くなるまで、散策を楽しんでいます。高齢者には、歩きやすいと好評を得ており、健康増進に役買っているほか、練習場不足に悩む中高生の部活動のトレーニングの場としても利用されています。

農地区域では、約3.2haの耕作放棄地を再整備し、農業体験の場として保育園児や特別支援学校生徒と、菜種の播種作業、甘藷の苗植えや収穫作業を行い農業にふれあっています。

綿花（オーガニック）栽培では、特別支援学校生徒たちが種まき、綿摘み、綿繰り作業、そして綿を手芸品の材料として利用するなど、学校の課外活動の一環として年間を通した作業が行われ、綿花の栽培から加工までを体験しています。